



医療法人社団 芙蓉会
ふよう病院

芙蓉ミオ・ファミリア町田
グループホームあおぞら
デイサービスふれあいルーム
千葉芙蓉病院
きやらの樹ケアセンター

芙蓉会社内報

やすらぎ

平成27年12月号

芙蓉会

理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

師走に入り、来年4月に控えている診療報酬改定の報道も目立ち始めました。今後は、部門毎の調整が始まり、機能別に大きな差が出て、その結果、プラスになる病院もあれば、マイナスになる病院も出てくる事が予想されます。当法人の場合、診療報酬対象の医療療養病床112床(町田・千葉合算)を運営しており、介護保険対象の介護療養病床の行く末と同時に、今後の動向を注視していきたいと思えます。

芙蓉病院では、昨年10月から病院機能評価受審を目指して取り組んで参りましたが、業務負担が大きくなり、一部の部署で通常業務に支障が出るという声も聴き、現在は、主に新しい医療機器の導入や経管栄養剤の再考など、業務の改善・効率化を主眼とした取り組みにシフトしております。経営の根幹に、費用対効果という言葉をよく使いますが、各現場のスタッフが、自覚を持って取り組んでくれている現況に感謝しているところです。

それとともに、最近、最も考えさせられたのは、他職種、他部署との連携の重要性についてでした。各種会議の発言が、議事録配布にて周知徹底ができていたと思っていたのに、実は少人数の幹部しか把握していなかったケース。また、決定していない事項がひとり歩きして、現場でいつの間にかルール化されてしまっていたケー



ス等。組織の在り方としてお恥ずかしい部分をさらけ出してしまいましたが、このような事例の多くは、日頃のコミュニケーションが確立されていれば回避できる性質のものであり、伝達方法の難しさを改めて実感した次第です。現実をしっかりと受け止め、現場の業務改善と同時に、私自身の業務改善及び意識改善も重要であると再認識させられた事例でありました。

設立から60年以上という業界でも老舗の法人として、古き良きものは継続し、そこに時代や環境の変化と共に手法や考え方に工夫、改善を加えていく。未来志向的な考え方を常に持ち続け、この難局と言われる時代を職員と一丸になって、乗り切って参りたいと思えます。

新人職員研修会

11月20日（金）A棟にて新入職員研修会を実施しました。今回は平成27年4月1日～平成27年9月30日までに入職された職員を対象とし、15名の職員が参加しました。

まず始めに、院長先生から当院の紹介と現状の患者層等についての説明があり、次に看護部長から看護部の紹介や今後の心構え等について、最後に四ヶ所理事長から当法人の創業者の経歴や理念「老人は国の宝」と、法人の沿革・離職率等の説明がありました。

当法人では、永年勤続表彰を実施しており、昨年より30周年表彰も新設致しました。今後も働きやすい職場づくりを目指し、縁あってご入職いただいた職員の皆様には、定年まで勤務し

ていただけるよう、努力して参りたいと思います。なお、次回開催は、平成28年5月頃の予定です。



院内職員研修会報告「医薬品副作用被害救済制度について」 10月開催 発表者：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 山中氏

内容

1. PMDAと健康被害救済制度
2. 医薬品副作用被害救済制度
3. 救済制度の仕組みと請求の流れ
4. その他

講演後のアンケートより

- ・この様な救済制度がある事を初めて知った。覚えておきたいと思う。
- ・慢性期病院の入院患者様は持病も多く、因果関係も難しいため勧めづらい事が多いと思った。
- ・請求書類の作成が煩雑そうなので、インターネ

ット申請や代行機関があればと感じた。

- ・副作用救済制度も必要かもしれませんが、もっと根本的な見直しを考えてほしい。

まとめ

医薬品副作用被害救済制度による患者様の救済には、医師、薬剤師など医療関係者の理解・協力が不可欠です。この制度を患者様・ご家族様に伝える為にも、私たちが制度を熟知する事が大切なので、繰り返し研修を重ねていきたいです。



院内職員研修会報告「医療安全について」

11月開催 発表者：医療安全委員会

内容

1. Pロールプレイング
2. 医療安全指針について
3. 院長より…医療事故は個人個人の注意に頼っていたのでは防げない。参考にした文献によると「人間に頼らない形あるもの、すなわち工学的な対策や行動のマニュアルなどの対策を優先すべき」とある。病院全体のシステムとして防止対策を考えなければならない。

まとめ

努力なしの安全は、存在しないということ。医療事故は起こり得るものであると認識し、そのリスクを下げるためにできることを一つひとつ確実に遂行していかなくてはなりません。マニュアル化などを優先的に進めて対策すべきであると感じました。

第28回運営懇談会開催

10月3日(土)芙蓉ミオ・ファミリア町田において、第28回運営懇談会が行われ、11名のご家族が出席されました。

四ヶ所理事長の挨拶で始まり、その後、施設長より「ご入居者の概要とお知らせ」「運営および職員の状況」の報告。看護科長より「ご入居者への医療面の対応など」「認知症の失認で現れる異食について」。ケアマネージャーからは研修報告「他施設での取り組み」と「環境整備やご本人の精神面に関する解決への意見」。介護主任より「イベントとレクリエーションの報告」と「ご入居者との関わり方」について。最後にご家族様との懇談で閉会となりました。ご多忙の中、ご出席くださりましてありがとうございます。



昼食バイキング

10月29日(木)ご入居者の皆様に人気の恒例行事、昼食バイキングを行いました。

五感で味わっていただけるように、いろどりや香り、盛りつけや器にもこだわった、見るからにおいしそうなお料理の数々。今回はハロウィンが近いこともあり、栄養科のスタッフが、カボチャのグラタンに可愛い顔のデザインを入れてくれました。

一番人気だったのは、豪華なお刺身の舟盛り。食欲をそそる一品で、すごい勢いで箸がのびました。



職場体験

今年も、つくし野中学校の生徒さんが2名、職場体験に来てくれました。

ふたりとも、ご入居者様の輪に入って朝の体操を一緒にしたり、おやつ作りを一生懸命手伝ってくれたりしました。ご入居者の皆様も、生徒さんとのふれあいは、とても楽しかったようです。

おふたりにとって、良い体験となりますように願っています。



おやつ作り

職場体験に来てくれている、つくし野中学校の生徒さんと一緒に、おやつ作りをしました。今までホットケーキやクレープ等は作ってききましたが、今回は、スイートポテト作りに初挑戦。マッシュしたさつまいもを形よく成形しオーブントースターで焼きあげるといふ、少々工程の多いお菓子なのですが、皆様とてもはりきって、

楽しそうに作っていらっしやいました。

焼きあがったスイートポテトには、果物やホイップクリームも添えられて、スイートポテト・ア・ラ・モードが完成。時間がかかっただけに、できあがりの嬉しさもひとしおです。豪華な見た目だけでなく味もおいしくて、満足気な笑顔があちらこちらで見られました。



コラム【異食について】

今回は、認知症の失認で現れる「異食」についてお話しします。

失認とは、視力、聴力、感覚、記憶には問題がないのに、それらが何であるか識別できないことをいいます。認知症になると、中核症状というものがあります。具体的な症状は、記憶の低下、失語・失認、失行。これらは、程度の差こそありますが全ての人に起こる症状です。そしてこれらの症状は、次のような行動を引き起こすことがあります。

＜視覚失認＞

異食：食べ物ではない物を食べてしまう異食
鏡現象：鏡に映っていることが分らない、または自分であると判らない

＜臭覚失認＞

弄便：お尻が気持ち悪いこともあって、おむつの汚れに手で触ってしまう

食べられないものを、口に入れてしまったり、食べてしまったりする「異食」は、認知症の症状が進行して、食べ物とそうでない物の区別がつかなくなることで起こります。また、寂しさや欲求不満の代償行為として、現れる事もあります。口に入れてしまう物の例としては、ちり紙、花、草、洗剤、化粧品、ゴミなど。認知症が重度になりますと、自分の便を口にしてしまうこともあります。

以前、当施設でも、食堂のテーブルに飾ってあった花の花弁をちぎって食べようとされたり、おやつにお出しした干し柿の硬いへたを懸命に咀嚼されていたりという事例があり、アメと取り替えていただいた事がありました。

対策として、口にしようとするものを手の届か

ないところに片づけておくことが大切です。また、異食を発見したら直ぐに吐き出させること。このとき、不用意に口の中に手を入れると嘔まれてしまうこともあるので、命に危険のないものでしたら、お菓子などを用意して交換してもらおうと良いでしょう。異食とは言えませんが、古くなった食品や魚の骨などもかまわず食べてしまうこともあるので、併せて注意が必要です。

当施設では、とろみ調整食品やインスタントコーヒーのような粉末や顆粒の物など、そのまま口に入れると喉に詰まらせる恐れがあるものは、戸棚に保管し、洗剤類は流し台の下に保管しています。画鋲は口に入れると危険ですので、施設内での使用を禁止しています。危険な物は「手の届かないところに片づける」「注意深く見守る」ことを徹底し、異食による事故を防ぎましょう。



看護科長 小倉隆子

町田市立南第一小学校を訪問

今年も、秋の恒例行事のひとつ、町田市立南第一小学校へ訪問してきました。3年生の子供たちから、歌や踊りの歓迎を受けた後は、グループに分かれてあやとりをしたり、ゲームをしたり。おなかの底からたくさん笑って、元気をたくさん分けてもらって来ました。



ふよう病院 敬老福祉祭り

全員が参加して、中庭で合唱をしました。そこへ、子供たちが飛び入り参加。かわいい子供の声に合わせての合唱は、元気が湧き出てくるようで、とびきり楽しいリフレッシュタイムになりました。



「学習療法」開講

10月より認知症の改善と進行予防に効果があると科学的に証明された「くもん学習療法」を導入しました。現在11名の希望者に実施。「頭の体操」と称した学習の時間は、職員とのセミプライベート時間になることもあり、皆様、ご自分の番が来るのを楽しみにしていらっしゃいます。

ふれあいルームバイキング

10月29日(木曜日)「ふれあいルームバイキング」を開催しました。もみじ等でカラフルに彩られた秋色満開の会場に、ならべられた色とりどりのごちそう。ご利用者様とスタッフが、取り皿いっぱいのお料理

をほおばりました。午後はスタッフによるカラオケ大会があり、寸劇を交えた歌やダンスで、会場は大きな笑いの渦の中。皆様、いつもよりたくさん召しあがり、おなかも心も満たされたひと時となりました。



「くもん学習療法」導入

ふれあいルームでは10月より、公文学習療法を導入しております。

ご利用者様とスタッフがコミュニケーションをとりながら、簡単な単語や文章の音読、計算を行っています。一日の学習時間は30分程度、

スタッフ1人に対して1～2名で実施しています。

皆様とても楽しそうに生き生きと学習されています。随时お申込みを受け付けております。お気軽にスタッフにお尋ねください。



レクリエーションの様子

午後の時間は、園芸活動や趣向を凝らしたゲーム等で運動のレクリエーションを行います。レクリエーションには作業療法士も参加し、運

動不足の解消をしたり、みんなで作品作りをしたりと、楽しい時間を共有します。皆様のお楽しみのお時間です。



作品展開催

11月16日(月)～12月中旬まで作品展を開催しました。

今回は夏と秋のテーマを展示いたしました。半紙を色染めした朝顔、広告紙を使用したもみじといちょう、紙粘土で作ったぶどう棚等、ご利用様が日々コツコツと細かいパーツを作り、根気よく熱心に作成され、とても良い仕上がりになりました。

共同作品は、ほとんどのご利用者様に参加し

ていただきました。制作は、手作業をしながらも会話が弾み、賑やかな雰囲気の中で行われました。時間をかけて一生懸命取り組まれただけに、完成時には皆様達成感で嬉しそうな表情をされていて、微笑ましく思いました。

11月21日(土)には家族会が開催され、多くのご家族の方にご覧いただくことができました。ありがとうございました。「芸術の秋」を感じられた期間となりました。



第4回家族会開催

11月21日(土)第4回家族会を開催いたしました。

今回はご家族、外部のケアマネージャーなど多数ご参加いただき、学習療法の実演を行いました。

皆様から伺いました生の貴重な声は、今後の支援に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。



ベビーカステラ作り

12月14日(月)たこ焼き器をフル活用して、ホットケーキ生地でベビーカステラを作りました。生地はふわふわしっとり。中にチョコレートやチーズを入れて、とても美味しく出来上がりました。



すてきな来訪者

職場体験学習で、つくし野中学校の生徒さん4名が来訪しました。また、時々託児室のかわいい園児達も遊びに来てくれます。世代が違う人々との触れ合いを大切にしています。



ご利用者のご家族様が作ったかぼちゃを使ったハロウィンアレンジメントを飾らせていただきました。とても素敵です！

敬老会・家族会

9月21日（月）ご利用者様・ご家族様が参加される中、ボランティア「どんぐり劇団」による数々の演芸を約1時間観覧し、涙あり笑いありの楽しい時をすごしました。

続いて家族会が開かれ、地曳次長による介護保険改訂による施設の現状についての説明があ

り、その後、ご家族と職員の間で意見交換が行われ、交流を深めました。また看護部より、ご利用者様の日常生活のビデオ上映があり、ご家族と離れて暮らしていても、何時でもご家族の事を想っている利用者様のメッセージが心にしみました。



芙蓉会グループ千葉施設見学会

10月24日（土）君津事業所のケアマネージャーが担当しているご家族を招き、施設見学会を行いました。平野副施設長ご挨拶につづき職員紹介、地曳次長から芙蓉会のご案内をしました。

休憩後は、きゃらの樹ケアセンター→上総園→千葉芙蓉病院をご見学いただき、ふたたび、きゃらの樹に戻られてお食事。少しでも秋の気

配を感じていただけるよう秋花・秋葉・秋野菜など、テーブルの飾りつけをしてみました。

休憩をはさんで、質疑応答・個人面談が行われました。お帰りになられる前に、ある家族様から『思い切って来てみて良かった』とお言葉をいただき、施設をより良く知っていただく良いきっかけになったことを、嬉しく思いました。



芙蓉会グループ千葉 新人研修会

11月11日、きゃらの樹ケアセンターにおいて、ここ1年の間に千葉・医療法人に入職された16名の新人職員のオリエンテーションが行われました。始めに、大津院長、嶋田施設長（欠席のため代読）に訓示をいただいた後、平野副施設長、池田看護部長から普段の心構えやこれから期待されることなどの話がありました。最後は四ヶ

所理事長が、芙蓉会の沿革について、四ヶ所ヨシ初代会長をモデルに、その半生を女優・竹下景子氏が演じた舞台「奇想天外万事良」をまじえて紹介しました。

参加者がこの法人の一員となった縁を、双方で再認識し、より良く長く、初代会長の信条のもと、努力し合えればと考えます。



広岡上部自治会の見学会

11月21日 医療法人の地域貢献の手始めとして地元住民の方々14名様をお招きして見学会を行いました。大規模災害が発生した際に、事前登録された方には持病の薬を配達して地域住民の役に立つことを最終目的とし、まずは千葉芙

蓉病院、きゃらの樹ケアセンター、薬局スミレ松丘店を見学していただきました。そのあとはきゃらの樹ケアセンターにて昼食をとっていただき解散となりました。今後も範囲を拡大するため、順次回数を重ねていく予定です。



院内研修会「認知症について」

10月開催 発表者：大津院長

認知症と物忘れは異なります。認知症の有無と程度を量るめやすとして、改訂長谷川式簡易知的機能評価スケール（HDS-R）、Mini-Mental State Examination（MMSE）などいろいろな方法がありますが、千葉芙蓉病院では、HDS-Rを採用しています。

認知症には、四つの分類があります。アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症です。

アルツハイマー型認知症は、認知症の6割を占め、85歳以上の約半数が罹患していると言われています。症状としては、記憶の障害、日時認識の間違い、場所の認識の間違い（これを失見当識といいます）で、ゆっくりと進行します。こういった症状は脳萎縮が見られるために起こりますが、身体の症状は少ない場合が多いです。

脳血管性認知症とは、認知症の約2割を占め、脳血管障害（脳梗塞など）発症から3か月以内に認知障害が出ますが、障害のある部位により症状は異なります（健常部位の脳機能は保たれます）。高血圧や糖尿病などの基礎疾患が多く、肺炎・寝たきり・褥瘡（床ずれ）などが出やす

いです。

レビー小体型認知症は認知症の約2割を占め、手の震え・小刻み歩行・突進歩行などのパーキンソン症状を伴い、症状の良い時と悪い時の差が大きく、幻視を訴えることも多いです。その他に抑うつ、不安等の症状も見られます。

前頭側頭型認知症は数が少なく、若年性認知症の原因疾患と言われます。家族や周囲の出来事を意に介さない、周囲の人に気を使わない、仕事をしなくなり自身の変化や障害に対する病識は失われる、といった状態があるようです。

千葉芙蓉病院にも、認知症あるいはそういった症状のある患者様が増えています。本来の病気を治療する上で、認知症症状のために治療がうまくいかなかったり、怪我をしてしまったという障害・リスクを伴います。介護がスムーズにいかず、患者様・職員共にストレスを感じることもあります。

今回の研修をきっかけに、患者様の状態が認知症という病気によるものであることを再認識し、対応を工夫し、より良い医療介護を提供できるよう、努めたいと思います。

